

平成 30 年 6 月 17 日

冒険遊び場づくり 全国フォーラム2018 × オレンジリボン フォーラム2018 共同開催

**遊ぶ**  
子どもと一緒に遊びに来る。それだけでもOK。  
●各地の活動団体や企業の皆さんによる「ブース」  
●親と子で楽しむ「遊(あそび)ブース」

**知る**  
冒険遊び場や虐待防止について  
●パネルトーク 各分野の最前線で活躍されている方々にお話を伺います。  
●グループワーク 4つのグループに分かれて話し合います。

**みんなの居場所 冒険遊び場の可能性**

子ども虐待防止とすこやかな成長のための役割

## 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

共催：認定特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワーク  
岡山大学地域総合研究センター

協力：

岡山県冒険遊び場づくりネットワーク／特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター

後援：

厚生労働省／文部科学省／社会福祉法人 全国社会福祉協議会・全国保育協議会／全国保育士会／岡山県／岡山市／笠岡市／倉敷市／備前市／岡山県教育委員会／岡山市教育委員会／笠岡市教育委員会／倉敷市教育委員会／備前市教育委員会／公益財団法人 こども環境学会／一般社団法人 日本子ども虐待防止学会／IPA日本支部／公益財団法人 SBI子ども希望財団／につぽん子育て応援団／NHK岡山放送局／テレビせとうち

## ごあいさつ

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会  
代表 関戸 まゆみ

日本冒険遊び場づくり協会は、日本中どこで暮らす子どもも、たくさん遊んで育ってほしい、自分の好きなことをして楽しんでほしいと願い、全国の冒険遊び場づくりを応援、推進しています。今回はオレンジリボンフォーラム2018とのコラボで、ここ岡山で冒険遊び場づくり全国フォーラム2018を開催できますこと、とても嬉しく思います。

冒険遊び場は、プレーパークとも呼ばれ、野外で子どもがやりたいことがなんでもできるようにと環境を整備している遊び場です。

私たちがめざす冒険遊び場づくりは、

①子どもの生活圏にあること②いつでも遊べること③だれでも遊べること④自然素材豊かな野外環境であること⑤つくりかえができる手づくりの要素があること、という5つのことを大切にしています。

そして、これらを叶える冒険遊び場の運営ために、

①住民によって運営すること②住民と行政のパートナーシップを築くこと  
③専門職のプレーリーダーがいること、という3つの方法を提案しています。

冒険遊び場は1970年代に東京で住民運動から始まり、今は全国で約400の団体が活動しています。日本冒険遊び場づくり協会では3年ごとに活動実態調査をしています。それによると週5回以上開催している団体は、7都県で17団体。週3～4日開催している団体は、11都道県で25団体です。週1回、月1回、不定期開催というのも多いです。(2016年調べ)

冒険遊び場は人が集う場です。乳幼児から小学生だけでなく中高生、社会人“みんなの居場所”です。子どもたちは、遊び場でさまざまな人と出会い多様な経験をして、どんな時も自分で生きていける力を身につけるでしょう。遊びは自分で決めて自分でやるものだからです。子育て中にそんな冒険遊び場で大空の下、子どもが遊んでいる声を聞きながら人と話したりしていると、いつのまにか悩みが解消されることも少なくありません。私自身も経験者です。冒険遊び場があること、そこに行くことが、虐待を未然に防ぐことにもなっているのです。

今日は、さまざまなプログラムが用意されています。各地から集まっている人との交流も楽しみながら、ヒントをもらって、ご自分のなかに、何かしらのチカラやお土産を持ち帰っていただけたらと思います。

こうして全国各地でフォーラムができることの意義は大きいのですが、開催には地元の方々のご協力があってこそです。岡山のみなさんに感謝です。

## ごあいさつ

認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク  
理事長 吉田 恒雄

本日は「冒険遊び場づくり全国フォーラム2018×オレンジリボンフォーラム2018」にご来場下さり、誠に有難うございます。オレンジリボンフォーラムとしては、今回で6回目の開催を迎えます。これまで、「子どもと子育てにやさしい社会が、子ども虐待のない社会につながる」との思いをもって企画・運営してまいりました。

今回は、新しい試みとして、遊びの大切さを広める活動をされている冒険遊び場づくり全国フォーラムと協働させていただき、この岡山の地での開催となりました。参加された皆様楽しい時間を過ごしていただき、皆様が笑顔で明日からの子育てに向かわれるように、そして子どもたちが夢中になって楽しめるよう、さまざまなイベントやブースを用意しています。

また、このフォーラムで、来場されたお父様、お母様がお互いに子育ての経験や日頃感じておられることなどを話し合ったり、お友達になっていただけるような機会になればと思っています。いま、このときでも、虐待で苦しんでいる子どもがいるかもしれません。

子ども虐待の問題は、行政や専門家だけで解決できる問題ではありません。私たち一人ひとりの関わりも、大きな力を発揮します。日々の子育てを担う親と子どもたちを地域の人々がやさしく見守り、ほんの少し手を差し伸べるだけで、親の気持ちが安らぎ、子どもはおとなのやさしさを知ることができるはずです。

今回の冒険遊び場づくり全国フォーラムとの協働開催となりますオレンジリボンフォーラムが、「子どもと子育てにやさしい社会」、そして「子ども虐待のない社会」の実現につながることを願っています。最後になりましたが、ご参加くださった皆様、ご出演いただいた皆様、ブースの展示やグッズの提供にご協力いただいた皆様、ボランティアの皆様、そしてこのフォーラムを後援していただいた皆様には、心より御礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

## 子ども虐待防止オレンジリボン運動とは



弊会が全国の総合窓口役を務める「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動です。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。オレンジリボンは、子育てを暖かく見守り、子育てをお手伝いする意志のあることを示すマークです。私たち一人ひとりにできることをして、子ども虐待のない社会を目指しましょう。

10:30～12:00

## パネルトーク

金光ホール

### 「みんなの居場所 冒険遊び場の可能性 ～子ども虐待防止とすこやかな成長のための役割」

#### パネリスト

##### 直島 克樹

川崎医療福祉大学講師

日本子ども虐待防止学会

第24回岡山大会副実行委員長

困難を抱えた子どもや家庭への支援、そして誰もが住みよい地域を社会福祉の立場から作っていく活動・研究に取り組んでいる。「子どもの貧困問題の解決」にも力を入れ子どもたちや家庭を支援する居場所を立ち上げるなど、地域の声を聴き、想いに寄り添いながら問題へアプローチすることを大切にしている。

##### 栗林 知絵子

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長

地域の子どもの地域で見守り育てることをコンセプトに「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」を設立。「要町あさやけ子ども食堂」「池袋本町プレーパーク」「無料学習支援」などを展開しつつ、地域の「おせっかいさん」をつなげ、子どもの居場所づくりを増やそうと、活動支援に奔走している。

##### 天野 秀昭

日本冒険遊び場づくり協会理事

1980年日本初の常設の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」で職業プレーリーダー国内1号として活動を開始。その後、全国に遊びの意義と実際の遊び場づくりを広めようと、遊び場づくりの支援に取り組み、プレーリーダーようせいのためのプログラムも実施。日本で初めての子どもの専用の電話「チャイルドライン」開設にも携わるなど、子どもの遊びと育ちに関わる環境を長年にわたり見守り続けている。

#### 事例報告

##### 村松 弥生

岡山市地域子育て支援課 課長

##### 大谷 哲子

岡山市こども福祉課 課長

#### コーディネーター

##### 関戸 博樹

日本冒険遊び場づくり協会理事



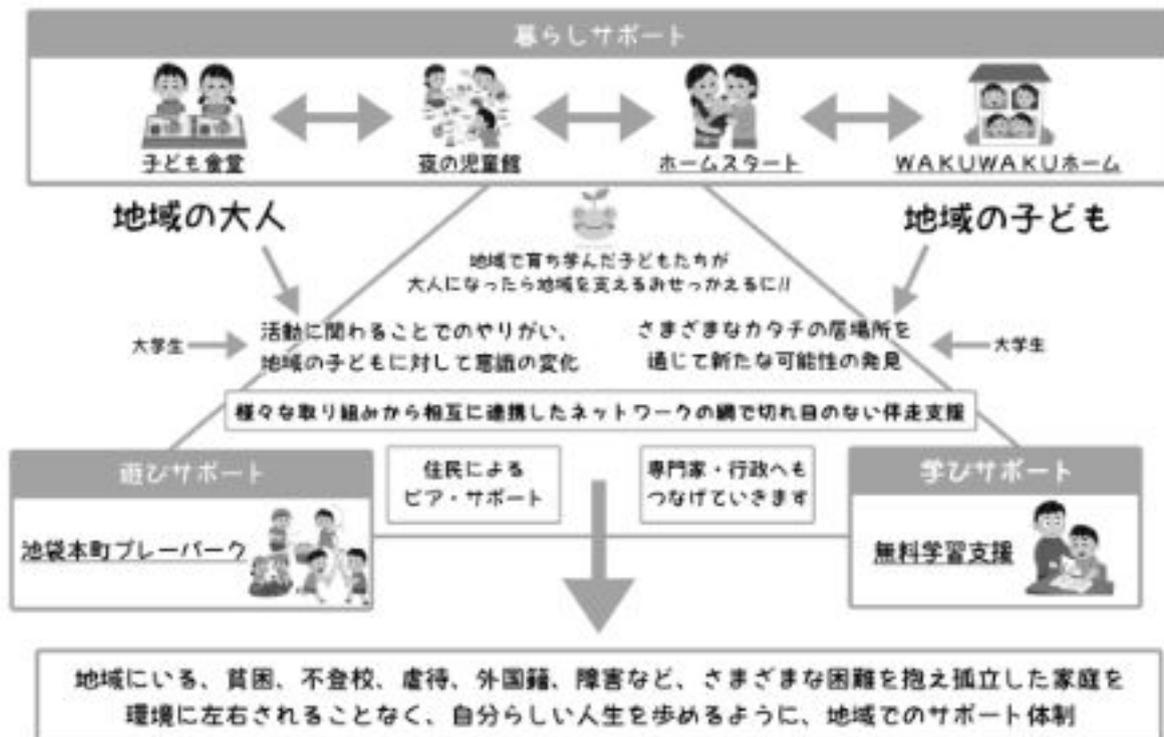
パネルトーク参考資料2：栗林 知絵子 氏

課題解決のプロセス(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク)

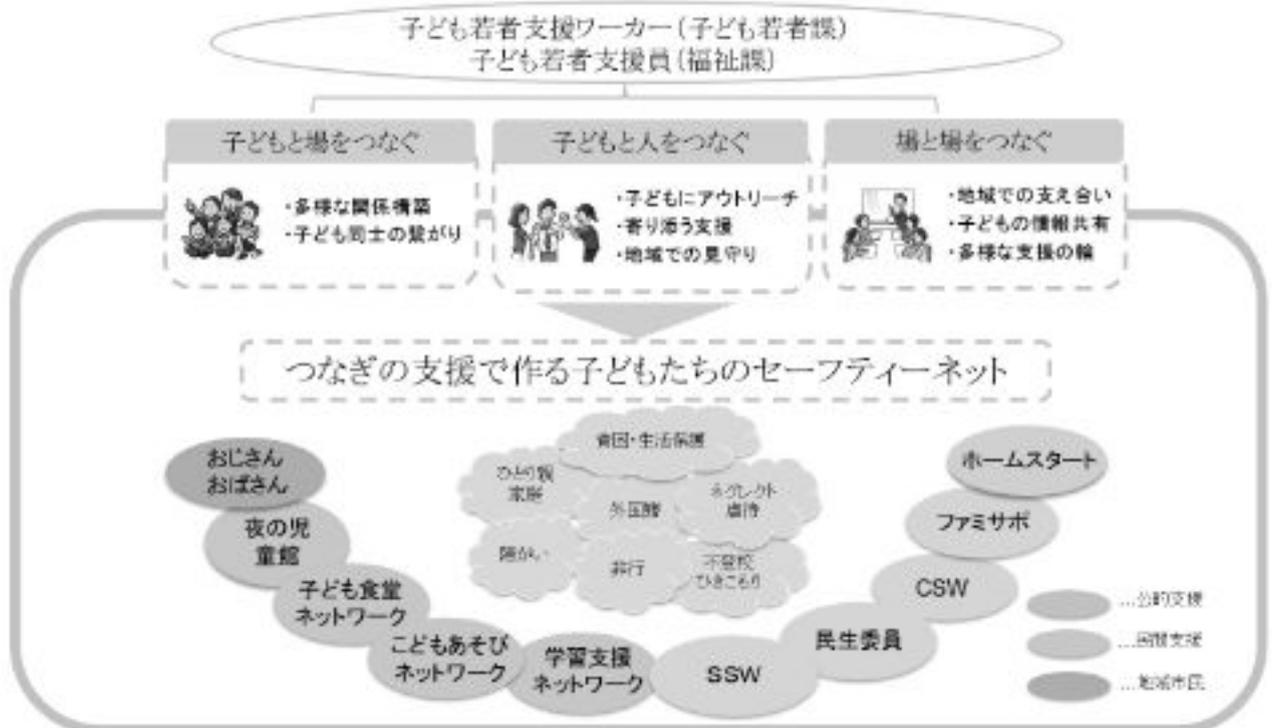
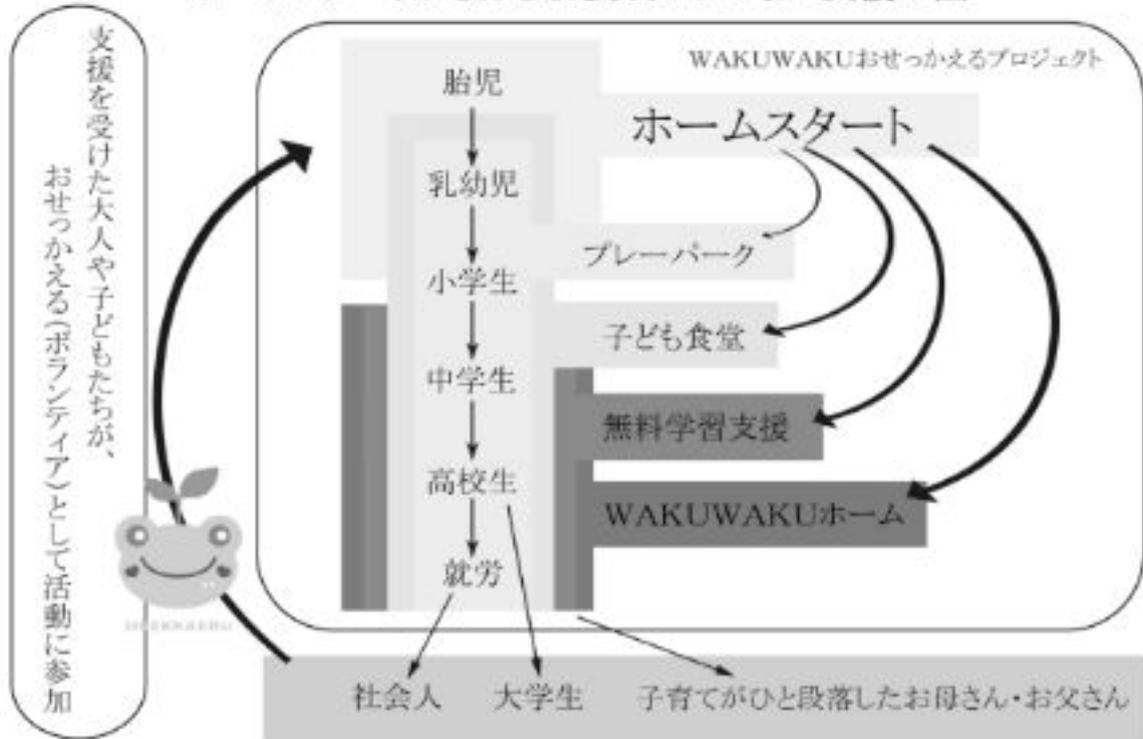


休職資金等活用審議会第7回 ①革新的手法に関する提案資料

WAKUWAKUおせっかええるプロジェクトの概要



### ホームスタートからはじまる切れめのない支援の図



もっと、五感を刺激しよう

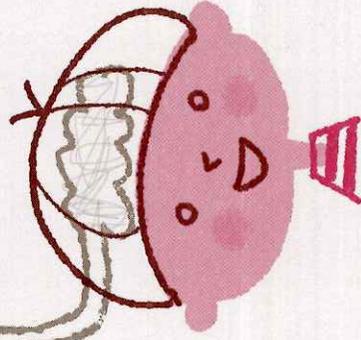
# 外遊びが「脳力」を 最大限に発揮する!

五感をフルに使って自然を楽しむことは、  
脳にもとてもいい影響があります。  
人の成長過程を見つめながら、  
その理由を考えてみましょう。

天野秀昭

(大正大学特命教授)

あまの ひであき◎NPO法人「日本冒險遊  
び場づくり協会」副代表、NPO法人「プレー  
パークせせがや」フリーランスたままりば」  
理事。子どもが自由に遊べる場（プレーパー  
ク）の開設に携わるとともに、その価値の普及  
活動を精力的に行なっている。著書に「よみ  
がえる子どもの驚く笑顔」(ほほえみ舎)がある。



## 「脳力」は意識できない範囲で 立派に働いている

脳は、ものを考え、判断する器官。もし  
そう考えているとしたら、それはとても  
大きく偏った理解です。それらは、「意識」  
できる範囲にすぎないからです。

人間の意識できる範囲は、実はとても小  
さいのではないかと思います。ほとんどの  
ことは、その人の意識の外で行なわれて  
いるものです。例えば、心臓の拍動呼吸。  
やめてしまえばすぐに死んでしまうこの  
動きを意識して行なっている人は、おそろ  
くないですよ。

同じように、普段の食事でも、胃に入っ  
たものを消化することやそれを腸に送り  
込むことなども意識の外です。ましてや

子どもの「脳力」が育つとは、どうい  
うことでしょうか。「能力」ではありま  
せん。「脳力」です。

「脳力」を高めるための要素はもちろん  
たくさんあるでしょうが、その中の大き  
な要素の一つ、それが「遊び」です。中でも  
「外遊び」は、子どもの発育には欠かせない  
ものです。その理由は、はつきりしていま  
す。

脳については、最近の目覚ましい脳科学  
の発展により、さまざまなことがわかって  
きています。

ここに誕生直後から1歳の誕生日を迎  
えるまでの、一見すると「寝たきり」の状  
態であるこの時期の目覚ましい脳の発達  
は、ごく最近わかってきたことの1つで  
しょう。

2歳までには、大人の脳の9割までで  
きまがるといつのですから驚きです。

そこから栄養分を吸収することなど身体  
が勝手に行なっていることで、本人はただ  
眠くなったり元気が出たりするだけの話  
です。

こうしたことの司令塔も、脳が担って  
います。ケガをしたと感知すれば白血球や  
血漿、血小板を増産してその場所に送り  
込み、緊張する場面では血圧を上げる。思  
春期にさしかかれば性ホルモンを分泌し、  
寒くなったら身体をぎゅっと縮めて体温  
を保つ。これらすべてが脳を司令塔とし  
て行なわれています。つまり、意識できる  
範囲だけで「脳力」を駆使すると、まったく  
間違った理解となってしまうのです。

次ページより、「人」と「脳力」の関係性  
を考えながら、なぜ子どもにとって遊び  
が必要なのか、ご紹介したいと思います。

体力が「脳力」を  
育てていく

身体の意識できない部分をコントロールしているのが、自律神経系、内分泌系、免疫系です。この司令塔は、もちろん脳です。そして、これらの基本的な構造は、おおよそ2歳まででできあがるのだそうです。ということは、脳の対応部分の基本構造ができるということでもあります。この間に、どれだけ多様な刺激が身体に与えられるか、それが、その後一生使う身体の「脳力」に大きな影響を及ぼす可能性が大いにあるということです。

「体力」という言葉があります。一般的に体力測定といえは、遠投だったり垂直とびだったり反復横とびだったりしますが、こうした測定で測れるのは筋力系ということがわかります。体力を文字通り「身体力」と理解すれば、こうした測定できる力はほんの一部ですよね。

先にあげた自律神経系など、身体はもつと無意識の、無自覚の力によって保たれているのです。身体への多様な刺激がそれを活性化させ、そのことが「脳力」を高めることにつながっていく。つまり、本質的な意味での体力が脳力を育てていくのだと考えられます。

完成していないから  
環境に適合できる

南北極周辺から赤道直下まで、平地から高地まで、人間ほどあらゆる環境下に分布する動物はいません。もちろん寒い中でも暮らせるように家を工夫し服を着たりしますが、氷点下50度以下にもなるようなところと、摂氏50度以上にもなるようなところと、その気温差は100度以上にわたります。そこに同じように分布できるためには、生まれてからその環境に適合できる幅、つまり未完成な状態が必要なのだと思います。

寒いところの人は汗腺が少なく、暑いところの人は汗腺が多い。遺伝的な要素ももちろんあるようですが、暑いところの民族の人が寒いところで生まれ育った場合、やはり汗腺はそれなりに少なくなるといって報告があります。身体は、完成形ではないから環境に適合できるので



なぜ、人は「未熟」に  
生まれてくるの?

人の赤ちゃんがあまりに「未完成」なのは、そうあるべき理由がきちんとあるのです。

人は、あらゆる動物の中で最も未熟に生まれてくると言われています。生まれてから一人で立つだけで1年もかかる動物は、自然界では死んでしまつてしまう。

もつと成熟してから生まれてくればいいのに……というのは、無理だと考えられています。これ以上頭が大きくなつては、産道を通れないからです。ただでさえ、赤ちゃんは生まれるときに頭がぎゅつとつぶれるようになっています。少し細くなつて生まれて、外に出て丸く復元するのです。そのために頭蓋骨いくつかの破片状態になっています。生まれてからそれが1つにくつつくのです。

医学的にはそういう説明で、きつとそれは正しいでしょう。でも、ほくはそれ以外にも未熟で生まれる理由があると思っています。それは、「生まれて以降の環境に身体を適合させる幅を持たせるため」というものです。

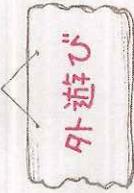
## 「家遊びと外遊びの違い」



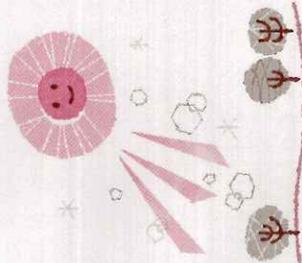
守られている安心感と  
リラクセスが得られる

屋内が屋外と比べ、身体に対する刺激が圧倒的に少ないことは少し考えればすぐにわかります。空調完備の屋内は、体温調節を必要としません。平面と直線の空間は、自然の世界ではありえないほど画一的です(自然界には平面と直線はほとんどありません)。身体に触れるものの感触も屋外と比べて単調で、すべすべ、ふわふわ、ふかふか……そんなものばかりです。

一方、守られている安心感や、ゆくりリラックスできるなど、屋内だから優れている面も大いにあります。ただ、それはかりとになると話が違ってくるのです。



日光や風が体中を刺激し、  
感覚器官が発達する



外にいれば、1日の気温差が時には10度以上にもなります。そのたび、身体は気温に合わせて体温調節をしなくてはなりません。それは自律神経を大きく刺激します。もちろん雑音類も多く、それが免疫系を鍛えます。日光や風は体中を刺激し、ホルモン等の内分泌系を活性化させます。

すべすべ、ふわふわだけでなく、子どもが本来大好きな、それとは対極的な感

触。ざらざら、こわこわ、ヌルヌル、ねちゃねちゃ、べたべたといった感触が味わえる素材も外には無限にあります。あなたも、例えばブロック塀の横を歩くときに、掌を当ててざらざらした感じを楽しんだことはありませんか。妙な「いたくすぐりたい」ような感じ。砂場や土や石、木の肌や葉っぱなど、こつした多様な触覚から子どもは感覚器官を発達させていきます。

「外遊び」は「感覚」で  
楽しめるものが無限にある!

自然は子どもたちの心と身体を大きく鍛えてくれます。  
親子でもっと、外に出てみましょう。



ここに至り、ほくには心配事が一つあります。脳の力を蓄えるためには生後直後からの身体への多様な刺激が欠かせないのですが、日本の子育て政策は屋内のものばかりなのです。

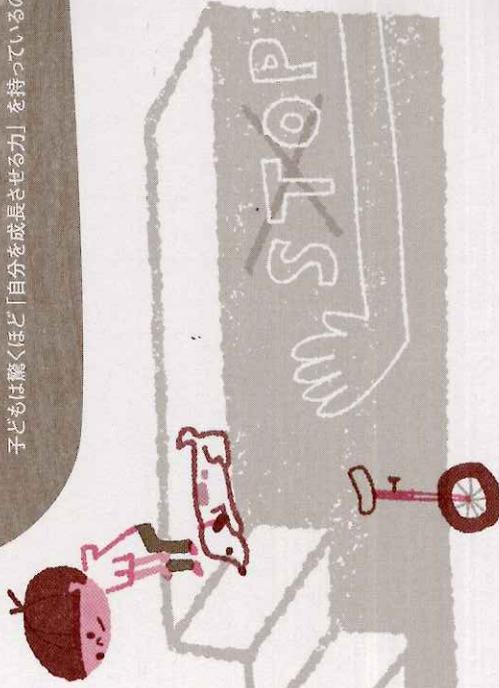
例えば厚生労働省は「子育て支援拠点」の整備を進めていますが、それはすべて屋内で、屋外は基準外として認められていません。屋内には屋内のよさもあるのですが、子どもの育ちの基本の場である屋外が政策として認められていないことに大きな疑問を感じます。怖いのは、それを真に受けただお母さん方が、屋内中心に子育てをしよつと考えてしまつことなのです。

### 「遊び」で身につく3つの力

- 大事な場面で集中する力
- 限界に挑戦しようとする力
- 自分で自分を育てる力

遊ぶことで「自分育て」ができるようになる!

「ダメ!」と言うのをやめて「やりたいこと」を見守ってみませんか。  
子どもは驚くほど「自分を成長させる力」を持っているのです。



#### 限界への挑戦から 「本当の危険」を学ぶ

子どもは、遊びの中でいつも自分の限界に挑戦しようとしています。例えば、誰もが経験していると思われる階段からの飛び降り。「二段目から飛べたから次は3段目に挑戦!」などというのは、その典型です。

大人は「あぶない」と言うかもしれませんが、そんなことは本人も承知の上。だからやってみたいのです。痛い思いを多少しつつも何度も限界に挑戦するから「これ以上やっては本当にあぶない」という本当の危険を嗅ぎ取ることができるようになり、とつとつときに身をかわす身体の動きも身につけることができるのです。そして何より、限界に挑戦することで子と

遊ぶことには、さらに大きな脳に対する活性要因があります。その第一が、意欲です。とまざまなことに興味を持ち、もつと面白いことを発展させる遊びは、意欲に満ちた世界です。生きるエネルギーの、まさに源を形成していきます。

さらに「やってみたい」という子どもの思いに支えられている遊びの世界はその子の内なる世界の表現そのものと言えます。その世界の表出を自分で確かめて、さらに子どもはそれを掘り下げていくのです。これは、生きるうえで自分の基礎を形成することになります。

そして、遊びを通して子どもは「集中力」を身につけます。やりたいことをするのだから、集中しないはずがありません。この気の構えを身につけることができるとき、大事な場面で集中ができるようになっていきます。

もは自分の世界を自分で広げ、育てようとしています。そしてそれこそが自分に対する信頼、つまり「自信」につながっていくのです。

#### 「遊育」が「脳力」を育てる

遊びを通して、子どもは自分で自分を育てようとしています。これをほくは「遊育」と呼んできました。大人が教養を育てようとする「教育」ではなく、子ども自身が遊び、育とうとする「遊育」は、子どもの「脳力」を丸ごと育てていきます。それは、「能力」を高めようとして行なう教育とは別物であることを、大人たちはもつと知らなければならぬでしょう。

# 13:00~14:30 グループワーク

2F会議室他

岡山県冒険遊び場づくりネットワークの  
中心を担う4団体がコーディネートし  
豊富な経験を持つゲストからお話をうかがいながら  
参加者のみなさんと語り合い学び合う時間です

## A 冒険遊び場と子育て支援

まずは、虐待防止の「発生予防」に着目して、冒険遊び場づくり活動の持つ特徴を捉えてみたいと思います。その中で見えてくる「遊び観・子ども観」をヒントに、子育て支援を再考し、語り合いたいよう！



ゲスト 松田 妙子 さん

NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事

### 特定非営利活動法人備前プレーパークの会

活動名 備前プレーパーク！森の冒険ひみつ基地

活動開始年 2005年

開催場所 森の冒険ひみつ基地

住所 岡山県備前市久々井1432

日時 毎週火～土曜 10:00～15:00

自然豊かな里山環境を最大限に活かした『森の冒険ひみつ基地』を拠点とし、遊び環境の充実と子育て支援、多世代交流などの事業を行っています。乳幼児から高齢者まで、幅広い世代が自由に集うことができ、ひとりひとりのもつ力が発揮できる地域コミュニティの場づくりを目指しています。

<https://www.facebook.com/bizenplaypark>

<http://bizenplaypark.blog66.fc2.com/>

## B 学童期の多様な居場所づくり

ゲスト 栗林 知絵子 さん

NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長

### 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター

活動名 おかやまプレーパーク

活動開始年 2002年

開催場所 国際児童年記念公園こどもの森

住所 岡山市北区学南町3-6-1

日時 水曜～日曜 (4～9月) 10:00～17:00

(10～3月) 10:00～16:00

岡山市の公園（国際児童年記念公園こどもの森）の一角を借り、プレーリーダーが常駐する遊び場を、週5日・200日以上開催。参加者は、乳幼児から高齢者まで約18000人。地域のコミュニティとなる一方、大学生の受け入れや県内外の視察も増えています。子どもが自由に遊ぶ場、誰もが自分らしく過ごせる場を目指し活動しています。

<https://www.facebook.com/Okayama.playpark/>

<http://www.kodomo-npo.jp/>

子ども食堂、学習支援、プレーパーク…子どもたちが本当に必要としているのは、どんな「居場所」でしょうか。さまざまな手法がある中で、作り手の大人たちが連携して取り組む意味について考えます。



## C 青年期までの切れ目ない支援

冒険遊び場は、そこに集う様々な世代の人びとが「遊び」でつながり、ゆっくりのんびり関係を紡いでいく場です。支援する側とされる側という関係ではなく、長い時間を共にし、一緒に場をつくらせてきた青年たちが思いを語ります。



ゲスト 天野 秀昭 さん

NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会 理事  
一般社団法人プレイワーク協会 理事

### 遊び場を考える会

活動名 お〜いみんなあそぼうよ！／まめっこ（乳幼児向け）  
活動開始年 2001年  
開催場所 酒津公園  
住所 倉敷市酒津 1556  
日時 第3日曜 10時半～15時 8月は3日間連続  
まめっこは不定期 10:00～14:00

子どもの「やりたい!」を大切に2001年に発足。20代～80代の地域住民で運営しています。遊び場を通して人と人が出会い、居場所になって、地域を通してまた人と人がつながっていく。子どもの生まれ持つ好奇心や、生き生きとした感性を大切に…そんな思いで活動しています。

<https://www.facebook.com/asobi.ba.01>  
<http://blog.canpan.info/asobi-ba/>

## D 冒険遊び場づくりをはじめよう

ゲスト 三浦 幸雄 さん

NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会 副代表  
(株)都市計画設計研究所 代表取締役

### 岩原山冒険遊び場

活動名 岩原山冒険遊び場  
活動開始年 2003年  
開催場所 笠岡市小平井の私有地  
住所 笠岡市小平井 288  
開催日時 毎月第3日曜日  
四季折々で様子が変わるシンボルツリーがある自然がたっぷりの遊び場です。竹木工、虫捕り、果実の収穫、池でのカヤックなど遊びは様々。火を焚いて作る簡単な昼食は、お一人100円と大好評です。手作りの授乳室は、ちょっとしたつろぎスペースにもなり、年代関係なく遊べる癒しの空間です。  
<https://www.facebook.com/iharayama.asobiba/>  
<http://iharayama-asobiba.jimdo.com/>

冒険遊び場って、なんだか魅力的…やってみたいけれど、ハードルが高い!? 冒険遊び場づくりをはじめるときの「よくある質問」に、日本の冒険遊び場づくり創生期に関わったゲスト（と現在進行中の担当者）がお答えします!



## 岡山県冒険遊び場づくりネットワークとは…

倉敷市、岡山市、笠岡市、備前市で活動する冒険遊び場づくり活動団体の代表者ネットワークとして2010年に発足。2012年には「中国四国・冒険遊び場づくりフォーラム&プレーリーダー会議」（参加者延べ95人）、2016年には日本冒険遊び場づくり協会と共催で全国集会パブリックビューイングの実施も兼ねた「中国地域冒険遊び場づくり交流会（参加者33人）」を開催。2017年度からは県内で広がりを持ち始めた活動団体のネットワークとして13市17団体に呼びかけを行い、交流会や学習会を開催している。2017年4月より、代表・東馬場省吾（岩原山冒険遊び場）、副代表・岡本和子（遊び場を考える会）北口ひろみ（特定非営利活動法人備前プレーパークの会）、監事・美咲美佐子（特定非営利活動法人岡山市子どもセンター）、事務局・清家彩菜（特定非営利活動法人備前プレーパークの会）。

13:00～14:30

## ステージプログラム

### プログラム 1

団体名	一般社団法人ぐるーん
当日の演目	鍵盤ハーモニカ「猫バス」「情熱大陸」 うた遊び：「大きな歌」 コーラス：「君は愛されるため生まれた」
内容	子ども達にはお馴染みの鍵盤ハーモニカですが、今大人の間でひそかなブームになっています。音楽には大人も子どもも関係ない！一緒に楽しく演奏します。 そして、会場みんなで歌って遊びましょう♪ 「君は愛されるため生まれた」はぐるーんのテーマソングです。
団体紹介	ぐるーんは、乳児院で暮らす子ども達を抱きしめる活動からスタート。①乳児院・児童養護施設への定期的な訪問②子ども達の交流イベントの開催 ③里親制度・養子縁組制度に関する情報発信④社会的養護を卒業する若者への就職支援等。血の繋がりを越えた新しい家族の繋がりを求めて活動しています。

### プログラム 2

団体名	くらしき作陽大学子ども教育学部附属児童文化部ぱれっと
当日の演目	1. 歌遊び「キャベツはキャツ」 2. パネルシアター『ねこのおいしゃさん』 3. 手遊び「ちいさなはたけ」 4. 人形劇『おすわりくまちゃん』
内容	小さな人からお年寄りまで、家族で楽しめるひとときをお送りします。 音楽に合わせて、みんなで心をひとつにした後は、パネルシアターと人形劇をご覧ください。 同じ時間、同じ場所、同じ気持ち。生のステージを楽しむことは、豊かな人生を共にすることです。
団体紹介	先生を志す学生と教員が立ちあげた学部附属の劇団です。 上演活動を通じた地域の子育て支援と、創造活動を通じた保育者・教員養成を一体的に行うことを目的として活動しています。 10周年を迎えた2018年度、500回目の公演を迎えます。

10:00～15:00

# ブース紹介

1F 交流サロン

(岡山県岡山市)



## 岡山大学 まちづくり研究会

岡山大学の掲げる学都構想に基づき、大学と地域の協働を考え、大学生が地域から学び、また地域に貢献していくことを目指している、岡山大学公認サークルです。地域調査、活動地域の小学生対象の寺子屋の運営、活動資金を集めるための農作業、イベントの企画など幅広く活動しています。

<https://twitter.com/okadaimachiken>

(岡山県備前市)



## 備前市教育協力隊

岡山県備前市を活動範囲としている地域おこし協力隊のうち、主に教育分野に特化している協力隊です。現在、隊員数は4名で、未就学児から高校生やお年寄りまで幅広い層に対して教育の機会を提供するために日々奮闘しています。

<https://bizeneducationsqua.wixsite.com/bizen-education>

(岡山県笠岡市)



## サザンツリー

徹底的に木にこだわり、伝統家具をオーダーメイドで制作しています。子どもたちにとって「ままごと」が感性を伸ばすための重要な遊びであると考え、プロの家具職人が一台一台心を込めて制作する「ままごとキッチン」が人気です。

<http://mamagoto.tree373.com/>

(全国)



## オレンジリボン運動

「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え、多くの方に子ども虐待の問題に関心を持っていただき、市民のネットワークにより、虐待のない社会を築くことを目指しています。

<http://www.orangeribbon.jp/>

(岡山県岡山市)



## レーゲンボーゲン

国内外の優れたおもちゃやアナログゲームに触れていただき、遊び方を伝えています。それぞれの環境、年齢、個性にあったものをコーディネートし、販売をしています。おもちゃ遊びはコミュニケーション力を養います。感性を開き、芸術性や想像力を高めるなど様々な効果があります。是非体感してみてください。

<https://b-m.facebook.com/asb2404649/>

14:45~15:30  
クローキング・閉会  
金光ホール

冒険遊び場づくり全国フォーラムとオレンジリボン全国フォーラムの初共同開催のしめくくりの時間です。参加者のみなさんとともに本フォーラムを振り返り、教育分野のゲストから遊び場の可能性についてのお話をうかがいながら、地域における様々な居場所づくりのあり方について考えます。

コーディネーター 梶木 典子

特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会 理事・副代表  
神戸女子大学家政学部 教授

## 1. グループワークの報告

自分が参加したグループだけではなく、他のグループで話し合われた内容にも耳を傾けて、みなさんと共有しましょう。

- A 冒険遊び場と子育て支援
- B 学童期の多様な居場所づくり
- C 青年期までの切れ目のない支援
- D 冒険遊び場づくりをはじめよう

## 2. 外遊びの場だからこそ果たせる役割とその可能性

### ① 岡山県備前市における小学生の外遊びに関する調査報告

実施：日本冒険遊び場づくり協会 情報研究センター

協力：備前市教育委員会

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 吉田梨乃

### ② インタビュー

備前市教育長 奥田 泰彦 氏

- 自己肯定感と外遊びの関連
- 地域における多様な居場所づくりの効果
- 冒険遊び場づくりへの期待

■ 調査の概要

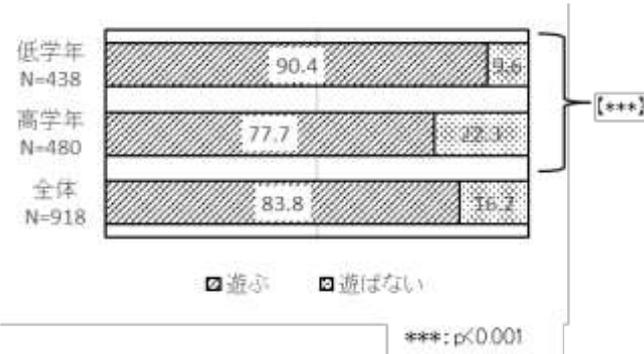
外遊びに関する調査	
調査方法	留置自記法
調査期間	2018年1月13日～2月10日
調査対象者	すべての備前市立小学校(10校)に在籍する全児童
配布数(枚)	1335
回収数(枚)	924
回収率(%)	69.2

岡山県備前市立の全小学校(10校)を対象に「外遊びに関する調査」を実施した。質問紙は低学年用、高学年用を用意し、配布・回収は各クラス担任により行った。配布数は1335枚、回収数は924枚、回収率は69.2%であった。

■ 回答児童の属性

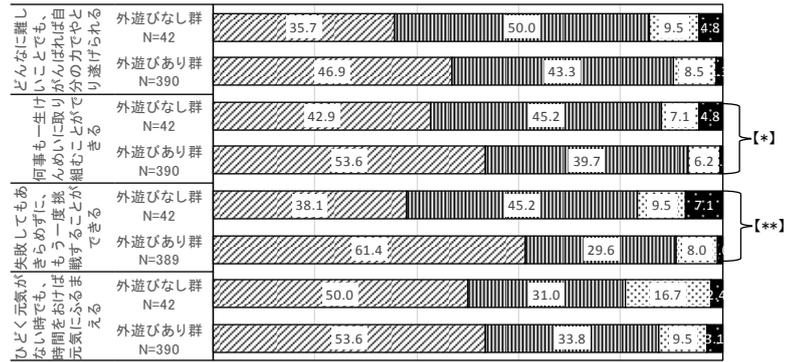
	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	男子	女子												
男女別	89	79	71	58	68	61	84	70	88	82	61	74	461	424
無回答	4		6		5		9		7		8		39	
合計	172		135		134		163		177		143		924	

■ 学校外での外遊びの有無

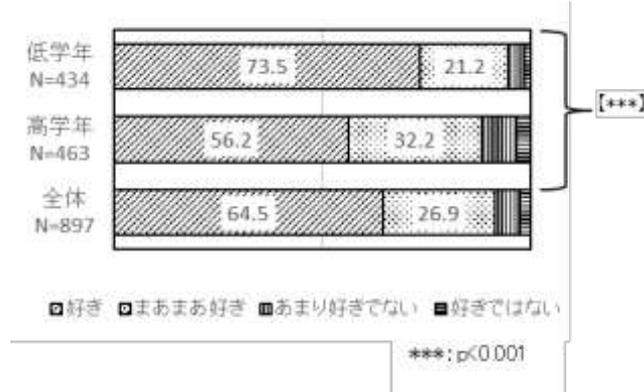


■ 自己肯定感と外遊びの関連 (学年別)

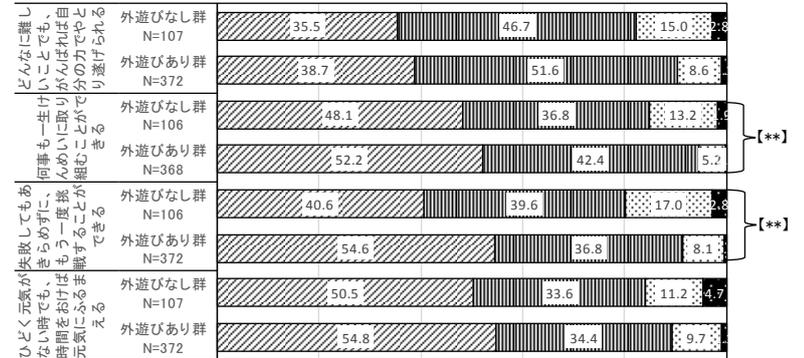
低学年



■ 外遊び志向



高学年



### 3. 閉会：共に取り組む明日に向けて

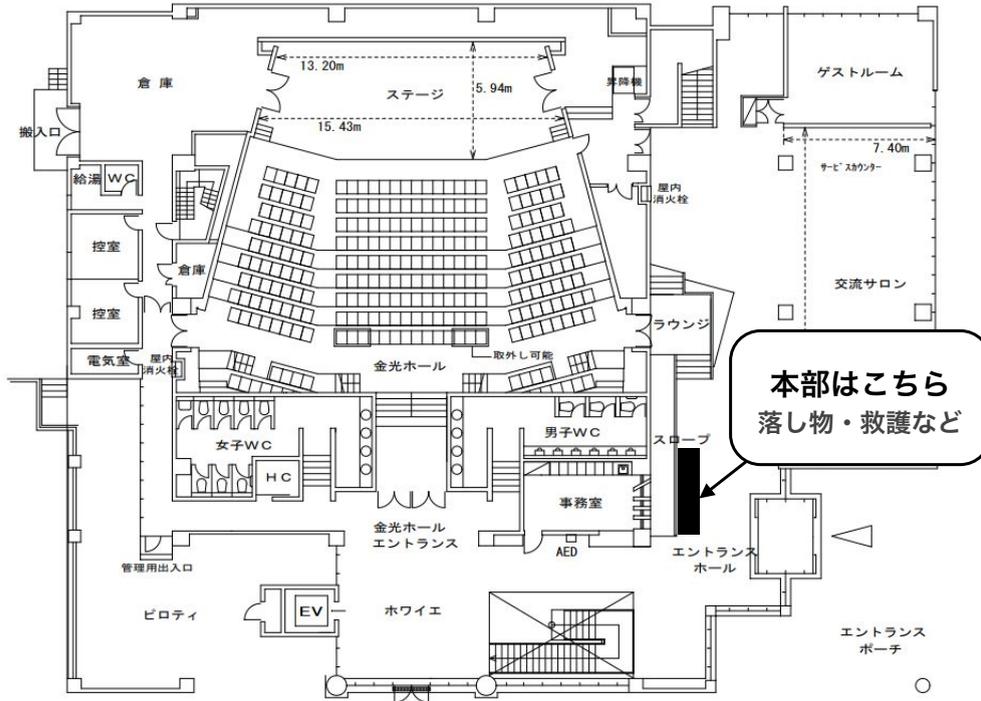
冒険遊び場づくりと虐待防止の団体による初共同開催となった本フォーラムの成果から、明日に向けて共に取り組めることをまとめます。

認定 NPO 法人 児童虐待防止全国ネットワーク

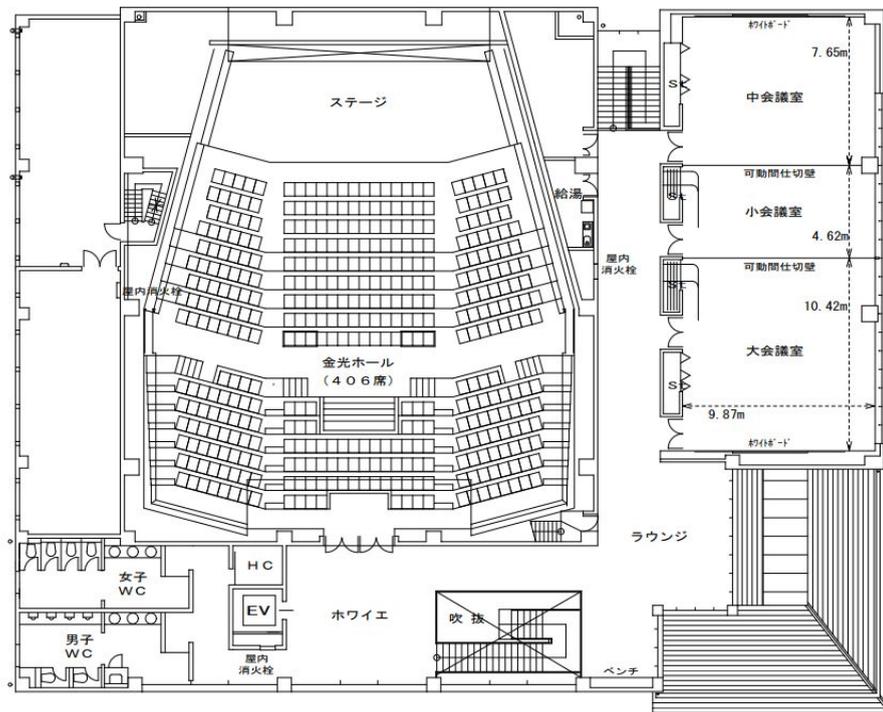
理事長 吉田 恒雄

# 会場案内図

## 1階



## 2階



※フォーラム中に撮影した動画・写真は、広報・関係者報告目的で、HPやSNS等に掲載する場合があります。ご協力をお願いいたします。